

視点①については  
ア、身近な人（両親、先輩など）の  
生き方にふれる。

イ、自分の歩みを振り返り、今後の  
歩みについての見通しをもつ。  
ウ、偉人の生き方について学ぶ。

これらを基盤に自己の生き方に対  
する手がかりを確実に得させること  
にした。

視点②については  
ア、一時間の授業のねらいを正しく  
とらえる。

イ、一日の生活プログラムにそった  
活動を行う。  
ウ、将来の希望の実現に確かな手が  
かりを得る。

これらを基盤に日常生活や将来の  
進路に対する目的意識を育てていく  
ことにした。

視点③については  
ア、生徒自身が長所を客観的につか  
む。

イ、長所を伸ばすよう努める。  
ウ、生徒自身の未知の部分に対する  
可能性についての情報を得る。

これらを基盤に自己の可能性を広  
げ、長所を生かそうとする意識をも  
たせることにした。

2、研究に取り組む内容  
(1) 研究主題に迫るための年次計画  
(資料1参照)

資料1 研究推進計画

時 期		実 践 の 内 容	
1年次	段 階	研 究 内 容	研 究 の 取 り 組 み
第一期	6月7	事前研究	(1)研究計画の検討・共通理解 ○基本的な方針の協議 ○研究組織の確立
第二期	8月9	授業実践	(1)実態調査 (2)研究授業実践 ○調査分析 ○第1回研究授業の実施(1年) ○第2回研究授業の実施(2年) ○第3回研究授業の実施(3年)
第三期	10月11日	分析処理	(3)実践資料の分析と証価 ○学級活動年間指導計画の作成・整備 ○指導案の形式作成(資料4, 6参照) ○進路指導の方策の検討
第四期	2月3	研究課題の設定	(4)課題の分析 ○次年度の研究計画の作成
2年次	段 階	研 究 内 容	研 究 の 取 り 組 み
第一期	4月	事前研究	(1)研究計画の検討・共通理解 ○具体的研究計画の作成 ○研究組織の確立
	5月6日7	授業実践	(1)実態調査 (2)研究授業実践 ○調査の分析 ○第1回研究授業の実施(1年) ○第2回研究授業の実施(2年) ○第3回研究授業の実施(3年)
第二期	8月9	分析処理	(3)実践資料の分析と評価 ○研究成果まとめ ○研究集録の作成 ○研究会指導案作成 ○研究会準備
第三期	10月11	研究のまとめ	(4)課題の集約 ○研究成果の発表(10/24・中教研県大会) — 授業を通して — ○新たな課題の集約
第四期	12月1日2日3	研究課題の設定	(5)課題の分析 ○次年度の研究計画の作成

① 平成二年度  
「望ましい進路選択ができる学習への取り組みませ方」  
●継続的に指導を行うための指導計画を整備する。  
●進路の選択について意識調査を行い、問題点を明らかにする。  
●目的意識を育成する授業を計画的に進め、評価、反省を累積する。

② 平成三年度  
「将来の希望の実現や可能性を広げるための段階的指導や生徒主体の活動のあり方」  
●生徒を主体的に活動させ、可能性を広げる工夫を取り入れ、その効果を探る。  
●生徒が主体的に活動する場を、教育活動全体の中で検討し、設定

し、効果的な進め方を探る。  
計画的に校内研究会を設け、また関係機関の指導を受け、授業の展開を中心に改善を図ることにした。  
3、研究組織とその運営  
研究を進めるため左ページに示す組織をつくったが、生徒が主体的に活動する時の核として学級運営委員会を設定した。運営については次の